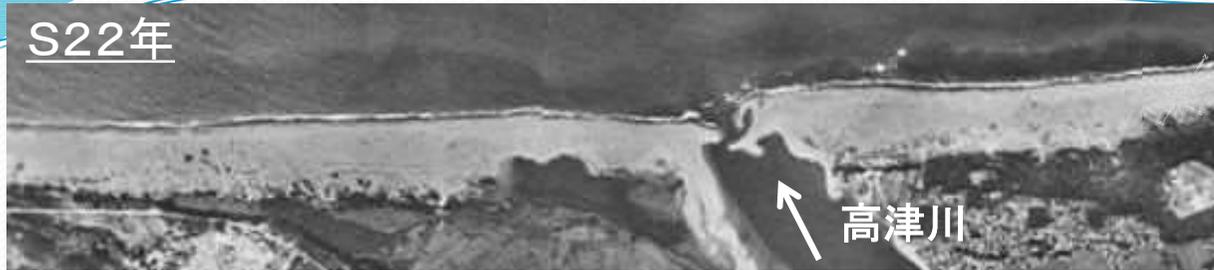


# 益田港海岸侵食対策事業



平成29年5月

# 砂浜の後退 ～経年変化～



※砂浜は5年間で20m  
後退している。(4m/年)

～冬期風浪の様子～



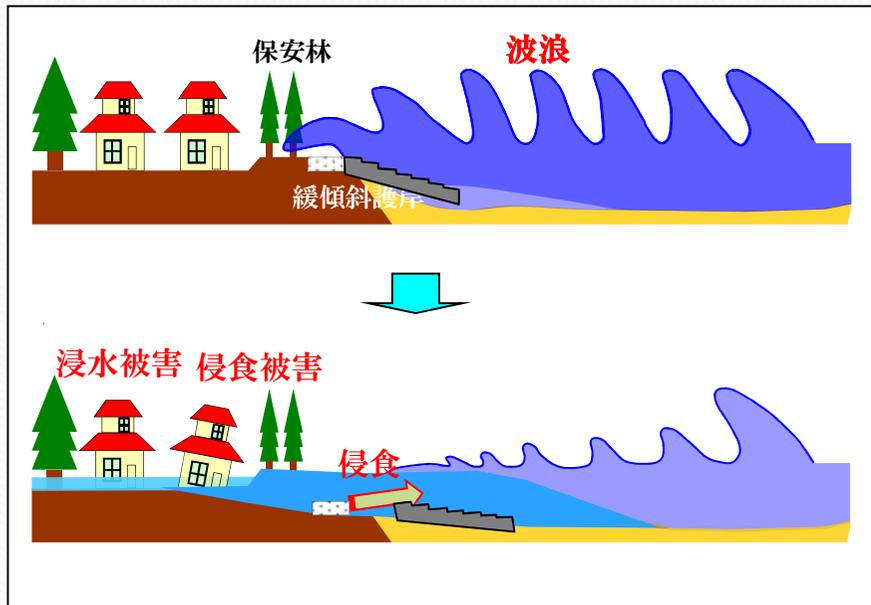
～護岸の被災事例（益田港海岸）～

【H9年被災】

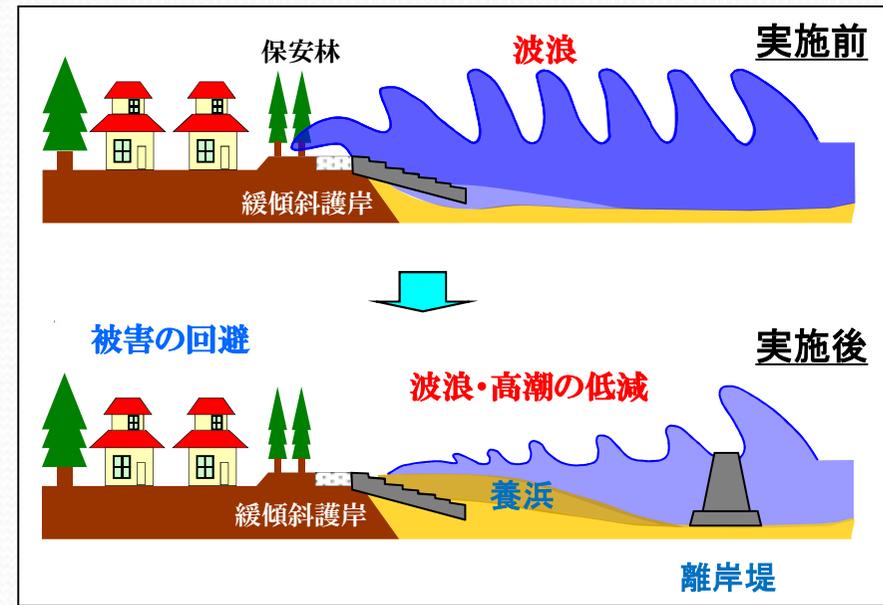


# 事業の目的

～事業を実施しない場合～



～事業を実施した場合～



## 【侵食対策事業の効果】

- ・ 海岸を防護することで国土を保全します。
- ・ 住民の生命・財産を守ります。
- ・ 道路等の公共施設を守ります。

## 【得られる便益】

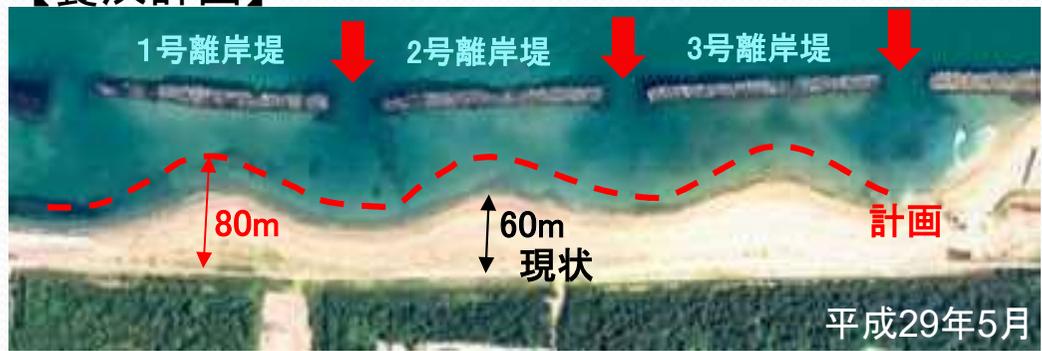
- ・ 侵食防止便益
- ・ 浸水防止便益

# 事業の進捗状況

H 5	事業着手
~	
H 11	4号離岸堤完成
H 17	1号離岸堤完成
H 22	2号離岸堤完成
H 25	3号離岸堤完成
H 34	養浜完成(予定)

離岸堤の開口部: ↓

## 【養浜計画】



平成29年5月

## 7 益田港海岸(益田市) 侵食対策事業 費用便益比

### ①費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	H29		
単純合計	29.87億円	7.47億円	37.34億円
基準年における 現在価値 (C)	56.58億円	2.64億円	59.22億円

### ②便益

	被害軽減期待額(便益)			残存価値 (便益)	合計
	侵食防止便益	浸水防護便益	飛沫防護便益		
基準年	H29				
完成予定年	H34				
単年便益	1.23億円	13.77億円	—	—	15.00億円
基準年における 現在価値 (B)	21.73億円	192.69億円	—	—	214.42億円

### ③結果

費用便益比(事業全体) B/C	3.62
-----------------	------

# 海岸浸食消える砂浜

全国で年間100万対策追い付かず

海水浴場など貴重な観光資源となっている全国の海岸が波で浸食され、国や自治体に対策を講じているにもかかわらず、砂浜が消失し続けていることが19日、国土交通省などへの取材で分かった。同省は年間160万対策が消えるのとみえており、このまま進むと今後30年で5500対策の三宅島（東京都）に近い規模の4800対策が減るといふ。

1960年代から各地で活発化した川の護岸工事やダム建設により、砂の供給源だった川から流れ出る土砂が減少。港湾施設を守るための防波堤などで海中の土砂の流れが遮られ、砂浜までたどり着かなくなった



1994年8月（左）と2011年8月に撮影された石川県羽咋市の千里浜海岸（同県提供）

ことも主な要因とされる。

国土交通省は2010年度にインフラ整備のための交付金を対策に充てられるようにするなど自治体への支援

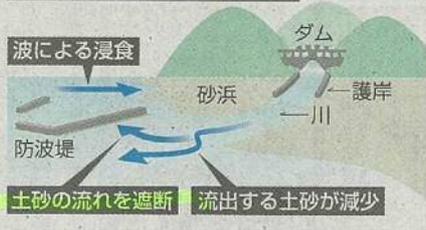
を充実。高度な技術力が必要な工事は同省が直轄事業として各地で進めてきた。ただ、予算の制約などもあり追い付かないのが現状だ。

国土交通省は93年、国土地理院の地形図を基に78年から92年にかけて年平均で東京ドーム約34個分の160万

対策が減少していると推計した。保全に取り組み一方で被害範囲は広がっており、既に対策を講じた海岸の状況などから同省は今もほぼ同じペースで進んでいるとみる。

石川県羽咋市から同県宝達志水町まで約8キロ続く千里浜海岸は国内で唯一、車で走れる砂浜として年間70万人以上の観光客が訪れる。県は10年度から、景観を悪化させずに波の力を弱

## 砂浜浸食のイメージ



めるため、1基約3億円の人工岩礁を海底に3基設置した。一部で対策の効果はあったが、07年に平均で幅47メートルあった区間が昨年までに29メートルまで減っていた。